

青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」 自己肯定感向上プロジェクト

平成30年度府立高校生災害ボランティア体験活動推進プロジェクト

京都府教育委員会

【事業のポイント】

- 知る・深める(講演)
水害の被害状況や高校生災害ボランティアを知る
- 気づく・体験する(フィールドワーク)
被災復興地を視察、体験談を聞く、水防体験
- はぐくむ・行動化する(グループ交流及びインタビュー)
1日の活動を意見交流、その後のインタビューやアンケートで振り返りを実施



1. 企画

(1) 事業実施の背景

東日本大震災、熊本地震をはじめ近年では自然災害が多発し、甚大な被害発生が続いている。そのような中で、高校生では自らの安全はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献しようとする態度等を身に付ける。

また、社会における自らの役割を自覚し、地域の防災活動や災害時のボランティア活動にも積極的に参加できるように求められているため、今回の高校生による災害ボランティア体験活動を企画した。

(2) ねらい

災害ボランティアの重要性を学び、生徒自らが「支援者としての視点」を持ち、ボランティア活動や共助への意識を高めることを通して、参加生徒の自己肯定感を育むことをねらいとして実施。

2. 実施概要

(1) 実施主体(運営体制)

【推進委員】

委員長: 小笹 正人 京都府教育庁指導部保健体育課 スポーツ・健康安全担当課長
 委員: 坂井 和正 京丹後市丹後町久僧(きゅうそ)地区区長
 渡邊 一真 京都府社会福祉協議会 地域福祉ボランティア振興課課長
 宮村 匡彦 京都府健康福祉部介護・地域福祉課 地域福祉担当副課長
 下村 敦 京都府教育庁指導部社会教育課 社会教育主事

【事務局】

長谷川 法子 京都府教育庁指導部保健体育課 健康安全教育指導担当 指導主事兼副課長
 小島 英恵 京都府教育庁指導部保健体育課 健康安全教育指導担当 指導主事
 大石 優 京都府教育庁指導部保健体育課 健康安全教育指導担当 主事

(2) 開催実績

月 日	内 容
7月18日	第1回推進会議(災害ボランティア体験活動推進プロジェクトの実施内容等について)
8月3日	平成30年度府立高校生災害ボランティア体験活動推進プロジェクト当日
11月28日	第2回推進会議(災害ボランティア体験活動推進プロジェクトの報告、まとめ等について)

(3) 具体的な取組の概要

自然災害を我が事として捉えて、事前の対策・準備を行う意識を持つために、被災された方から災害の状況を聞く。

次に、被災者の方から、当時、高校生災害ボランティアを受け入れた事について、当時の高校生の活躍ぶりやその存在が心の支えになったエピソード等を聞く。

さらに、水害を想定して、土嚢を積む体験活動を行う。

最後に、グループワークやインタビュー等を通して災害発生時に、高校生として、社会に貢献できることに自覚することを通して自己肯定感を高めさせたい。

(4) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

1日の体験活動プロジェクトの内容を講演、フィールドワーク、グループ交流及びインタビューの3つの柱で計画し、生徒たちが体験前と、体験後の心の変化に気づける活動となるよう、検討・試行した。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

参加生徒の実態として、災害ボランティアについて、過去に参加した生徒もいたが、大半の生徒はほとんど知識のない生徒であった。参加者は、一日の体験を通して、自然災害を我が事として捉える事で災害に備える大切を学んだ。また、高校生のボランティアを受け入れた方の話を聞くことで、高校生でもできることを考えた。さらに交流やインタビューをすることを通して、自身だけでなく、参加者の家族や友人等にボランティアの大切さや高校としてできることを広めたいと実感させることができた。

【体験活動前のアンケートより】

・高校生にできるボランティアはどんなものがあるのかを知りたい。

【フィールドワークについてアンケートより】

・一人ではできないことが多く、水が迫ってくる恐怖はものすごいことだったと思う。その分高校生ボランティアが力になったとおっしゃっていたので、自分にもできることだと思った。

【体験活動後のアンケートより】

・ボランティアは物を直すだけの存在ではなくて人の心を復興させるためにも必要だと感じた。また、自分の考えを押し付けず被災者の方に寄り添うことが必要だと感じた。

・ボランティアの大切さを感じました。誰かのために自分の力を出して助けることはやっぱりいろいろな人から感謝されるし、自分の力になると思いました。

・学んだことを家族や友達と考えて、準備の大切さを伝えたい。決して他人事でないと言いたい。

(2) 事業運営上の課題

今回の取組で事故等は発生していないが、当日は猛暑の期間であったため、熱中症等の心配が懸念された。生徒の参加しやすいよう夏休みに設定をしたが、今後、同様の生徒参加型プロジェクトを計画するのであれば生徒が集まりやすい時期だけでなく、気候や交通手段なども考慮する必要であると考える。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

今回の取組では、参加者たちは、防災に対する意識、ボランティアの必要性を高めてくれた。今後は、より多くの高校生に災害ボランティアの普及啓発を行えるように、本府における教職員対象の安全研修会等で、今回の取組を紹介していくことで、府内の教職員からも高校生に対して災害ボランティアの防災に対する意識、ボランティアの必要性を高めていきたい。

4. 団体プロフィール

〒600-8533

京都市下京区中堂寺命婦町1-10
京都産業大学むすびわざ館4階内
京都府教育庁指導部保健体育課

TEL 075-414-5876

FAX 075-414-5888



京都府庁(旧本館) 国の重要文化